



水争いに心痛めて開削

⑩ 御子柴艶三郎の井 伊那市

伊那市の市街地西方に広がる台地に水神宮はある。脇には頌徳碑。明治時代、私財を投じ、一命をも投げ打って井戸を開削した御子柴艶三郎の偉業が刻まれている。

伊那谷遺産 第1部

年から5本の縦井戸を掘り、それを横井戸で結んだ。約600メートルといわれる隧道から湧く横井清水は分水柵を経て一帯を潤し、約40畝を水田に変えた。厳しい残暑の中、同市上荒井の農家の夫婦が分水柵から流れ出る水で小豆を洗っていた。水の行方を尋ねると「西町の方に流れている



QRコードから天上事務所HPへ

・片桐美登
(文・倉田高志、絵

向こうの筋が南井で、こっちが北井。真ん中のが中井」と指をさして教えてくれた。住宅建築が進み、一面田んぼだった風景も変わりつつある。だが恩恵は変わらない。小豆洗いの手を休め、「水不足が騒がれた今年の夏も細くならなんだ。みんな艶三郎のおかげだ」と感謝した。

毎週火曜日掲載